

科 目 名		学年	
技術経営論: Management of Technology		5B	
教 員 名	朴唯新: Park Yousin		
単位	授業時間	科目区分	
1	100分×15回	選択	
学修単位	○		
授業概要	本授業ではMOT関連の古典であるvon Hippelの『イノベーションの源泉』を紹介する。イノベーションは常にメーカーの手で行なわれるわけではない。ユーザー、関連する部品や原材料の供給業者が生み出す場合も多い。この3者の内誰がイノベーターになるかはイノベーションに対して期待する利益の大きさによって予測できる。		
到達目標		評価方法	
(1)イノベーションの源泉が誰なのか理解できる (2)イノベーションの源泉の予測ができる (3)イノベーションの機能的源泉とその期待利益との関係が理解できる。		評価方法および配分は、①中間、期末試験(80%)、②自学自習によるレポート(20%)とする。	
学習・教育目標	(C)2	JABEE基準1(1)	
	(d)-(1)		
授 業 計 画	回	項 目	内 容
	第1	授業紹介	技術経営論の概要、授業のやり方などを説明する。
	第2	イノベーターとしてのユーザー①	イノベーターとしての顧客の役割について注目する。
	第3	イノベーターとしてのユーザー②	イノベーターとしての顧客の役割について注目する。
	第4	イノベーションの機能的源泉の多様性	ユーザーがイノベーターの例
	第5	イノベーションの機能的源泉の多様性	メーカーがイノベーターの例
	第6	イノベーションの機能的源泉の多様性	サプライヤーがイノベーターの例
	第7	経済現象としてイノベーションの技能的源泉	主な仮説と機能的役割の変更の可能性について検討する。
	第8	中間試験	
	第9	イノベーションの機能的源泉とその期待利益との関係の検証	仮説検証の事例紹介
	第10	イノベーションの機能的源泉とその期待利益との関係の検証②	仮説検証の事例紹介
	第11	ライバル企業間の協調	ライバル企業との技術情報共有
	第12	ライバル企業間の協調	経済学的説明
	第13	イノベーションの機能的源泉の変化	ユーザーが開発したイノベーションの価値の変化
	第14	イノベーションの源泉の予測	リードユーザーについて説明する。
第15	まとめ	本講義内容のまとめを行う。また、授業評価アンケートを実施し、理解度や目標到達度を確認する。	
自学自習の内容	レポートを課す。		
関連科目	MOT入門、MOT特論		
教科書	プリントを配布		
参考書	イノベーションの源泉(ダイヤモンド社)		
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。		
副担当教員			
備考	PowerPointを併用して講義を行う。		